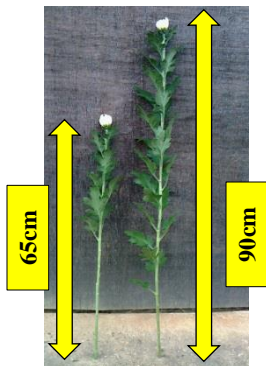


# 研究トピックス

## 輪ギクにおける短茎多収栽培技術の確立

効率的なキクの生産、流通を行うため、茎の短い規格（短茎）の輪ギクを生産する「短茎多収栽培」技術を開発しています。従来より25cm短い65cmのキクを10a当たり48,000本、年間で4回生産できる技術（約6割増収）の確立が目標です。現在、県育成品種「なつき愛」を始め本栽培に適した品種の選定や最適な栽植方法を明らかにしています。

（東三河農業研究所）



短茎と現行規格の比較



栽植密度を高めた栽培試験

本研究は農食研究推進事業「きく生産・流通イノベーションによる国際競争力強化」で実施しています。

## いもち病に強い「ミネアサヒ同質遺伝子系統」の開発

愛知県の中山間地域では、水稲作付面積の85%で良食味水稲品種「ミネアサヒ」が栽培されています。しかし、本品種はいもち病に弱いことから、いもち病の抵抗性遺伝子を付与することにより、耐病性を持ったミネアサヒ同質遺伝子系統の育成を進めています。

本品種がより早く地域に普及することを目的とし、本年度から市町村やJA、農業改良普及課の担当者とともに生育観察や食味試験などを行い、来年度には現地での栽培試験を予定しています。

（山間農業研究所）



いもち病発生の状況  
同質遺伝子系統は健全に生育しているが、「ミネアサヒ」は、いもち病が発生している。

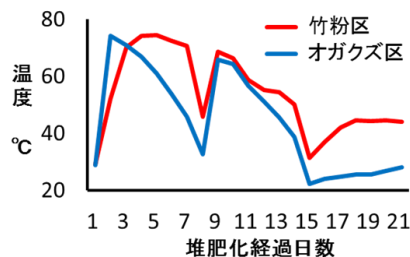


葉いもち病検定ほ場  
市町村、JA、普及課担当者とともに、抵抗性遺伝子の効果を観察した。

## 未利用資源—竹—の有効活用

竹の繁茂で山が荒れています。この厄介物を竹粉に粉碎し、家畜ふん尿を堆肥にする際の水分調整材として利用する研究を行っています。竹粉には微生物の養分となる分解しやすい有機物が多く含まれており、発酵温度が高温で推移するため、短期間で堆肥を作ることが可能となります。今後、竹の粉碎方法の違いによる堆肥化効率を明らかにし、竹の一層の有効利用を図ります。

（畜産研究部）

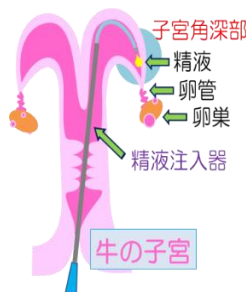


堆肥化時発酵温度の推移

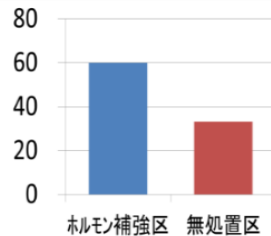
本研究は「家畜ふん尿資源化利用推進事業」で実施しています。

## 雌選別精液を用いて乳牛を効率的に生産！

乳牛は人工受精で妊娠させます。近年、雌が90%以上の確率で生まれる「雌選別精液」が普及してきましたが、受胎率が低いという問題があります。そこで、雌選別精液を用いて、卵管のなるべく近い所（子宮角深部）に授精する技術と受精後に妊娠を維持する働きのある黄体ホルモンを投与する手法を組み合わせることにより、受胎率を向上させる技術を開発しました。（畜産研究部）



精液注入部位



受胎率の比較 (%)

本研究は三重県との共同研究で実施しています。

## 研究短報第110号

編集・発行 愛知県農業総合試験場  
〒480-1193 愛知県長久手市岩作三ヶ峯1-1  
TEL 0561-62-0085 内線322(企画普及部)  
FAX 0561-63-0815  
<http://www.pref.aichi.jp/nososi/>